

### ★5月度活動報告 年次総会

震災から50余日を経過しましたが、依然として落ち着きのない世の中です。そんな中ではありますが5月21日に例年通り年次総会を開催し、前年度事業総括と新年度計画について議事を完了し設立7年目の新たなスタートを切りました。本年度は、昨年から始まったワーキンググループ活動を中心に多くの会員が参加できる企画実施を推進します。

各ワーキンググループのテーマは以下の通りです。

- 経営力向上セミナー企画
- 自治体IT調達支援企画
- ITコーディネータ向け知識研修セミナー企画
- 個別企業・団体システム調達支援業務受託

以上4つを事業の柱として「IT経営実現支援活動」に取り組んでまいります。

### 個別IT調達支援業務受託

この間 食品メーカー・保険団体から支援委託の依頼があり、現在内容についてユーザ側と調整中です。両ユーザとも長年の同一ベンダとの取引関係の中でベンダ依存でのシステム運営が続いて様々な弊害が起きており、IT戦略再構築に向けてITコーディネータへの大きな期待が寄せられています。 (土橋)

### ☆彩の国「花の彩り」



埼玉県坂戸市の自宅の近辺で見つけた紫陽花です。

写真提供：榎本会員

### ★セミナー報告 平成23年5月度埼玉IT経営研修セミナー 2011年5月21日(土)開催

- 講演1 「アジャイル開発とは何か？それは使えるか？」
- 講演2 「ITコーディネータ協会の活動方向とITコーディネータへの期待」
- 講演3 「ITコーディネータの市場創出とブランド力向上」



(松田所長)



(高橋専務理事)



(中塚部長)

### <講演1>「アジャイル開発とは何か？それは使えるか？」

(講師)行政法人 情報処理推進機構 (IPA) ソフトウェア・エンジニアリング・センター所長 松田 晃一 氏

○ソフトウェアの開発手法が持つ課題認識

- ・要件が事前に全ては決まらない
- ・要件の誤りが最後のテストまで解らない
- ・時間がかかり過ぎる
- ・工程の完了判断基準があいまい
- ・開発者のもの作りへの参画意識、達成感が低い

○課題解決の手法として、従来のウォーターフォール型の開発ではない方法をとる中の有力候補としての「アジャイル型開発」というものに注目

○アジャイル型開発のコンセプト (アジャイル=機敏・俊敏、という意味)

・顧客の要求に従って

・優先度の高い機能から順に

・要求分析/設計/実装/テスト/リリースを

短い一定の周期を繰り返しながら

・システム全体を構築する「**反復開発・順次リリース**」にある。

○アジャイル型開発プロジェクトの22の事例から言えること

【**特長**】・開発チーム規模は約8割が8名以下

・開発期間は半数が2~4か月

・アジャイルのプラクティスの中から取捨選択利用

・内部開発(自社用または販売パッケージ開発)が多い

・受託開発の場合は既存システムの更改および新規案件

・効果=要求の変化への柔軟な対応、市場投入への迅速化

【**短所**】・大規模開発の場合はチーム分割と同時にそのチーム間のコミュニケーション確保

・分散拠点の場合や時差が生じる場合はコミュニケーションの為にサポートツールなどが必要

・組織(会社)間をまたぐチームの場合は共通のビジネスゴール認識醸成

・組込みシステム開発の場合はリリース後のソフトウェアの修正が困難

○アジャイル型開発での契約上の注意点

22件の事例では“請負契約”および“準委任契約”で13件(72%)を占めていたが、相応しい契約の形としては、契約双方の協働関係が重要であるため「基本契約+個別契約」型の契約モデルを薦める。これにより、開発対象がはっきりする時に順次個別に契約を進められ、スピーディに、かつ両者の協議を常に図ることができる。また、協働作業という観点からは“組合”という体制で共同開発という認識を契約として持たせることも有効だとの試案を提案する。

最後に、アジャイル型開発手法は、ユーザ・顧客との協調をすることに価値を置く、と同時に、開発に関わる一人ひとりがやりがいと働きがいを感じられるものになるものと期待している、と締めくくられた。

## <講演2・講演3> 「ITC協会の活動方向とITコーディネータへの期待」・ 「ITコーディネータの市場創出とブランド力向上」

(講師) 特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会

専務理事 高橋 明良氏 事業戦略グループ部長 中塚 一雄氏

○2010年度事業概要・・・ 中期計画初年度として積極的な新機軸の取組と事業遂行を行った。

【ITコーディネータ活動への各種支援施策】IT経営応援隊事務局を受託しての中小企業IT経営化事業支援・ITベンダ連携事業・自治体IT化に関わる事業・新潮流としてのSaaS/クラウドビジネスインフラ対応でのITコーディネータの組織化を検討した。

【協会としての事業推進施策】IT経営理解者/資格取得者の掘り起こし・中小企業経営者/有識者参画による新ビジョン諮問委員会組成・各種情報共有活性化基盤整備など

【IT経営力大賞(2010)事業】への参画は、経済産業省の予定継続事業として力を入れているものであり、関係機関との連携の中で得るものが多かった。また、受賞した中小企業に、結果としてITコーディネータが関わっていることが多かった、というのも特筆すべきことであった。

○2011年度事業計画骨子・・・ 重点事業戦略

(1) 中小企業支援機関・団体へのとの協調ネットワーク構築

(2) ITベンダとの連携による中小企業のIT課題解決支援の仕組み構築

(3) 「IT経営研究所」の立ち上げ・・・中小企業を対象とする「IT経営」「SaaS/クラウド」「ビジネスインフラ/EDI」を主テーマとした活動

○ITコーディネータへの期待

(1) 従来のミッションとしての「経営とITの橋渡し」に加え「ユーザとITベンダの橋渡し」

(2) 従来の「IT利活用」から「ITサービス利活用」へのパラダイムシフトへの対応

(3) 「個人力」に加え「組織力(ネットワーク化)」への期待

(4) 地域「IT経営」推進スキームの形成と積極的な役割発揮

・・・ITコーディネータの連携だけでなく地域のITベンダや商工団体金融機関等の各支援組織との連携を図り地域経済活性化を「IT経営」の実現で牽引する「元気な地域中小企業」の創出を期待する。

### ☆リレーコラム (◆◆今月より、会員が交代で投稿する「リレーコラム」を開始します。口火は土橋理事長です)

最近、依頼案件実施の情報収集のため、4社のITベンダー人事担当者から最近の求人活動ならびにキャリアパスについてヒアリングする機会がありました。この分野は、過去の自分自身の人事担当役員経験や、就職情報誌ビジネスへの関わり等で今でも大変興味深いテーマです。感ずるところは色々ですが、その中で特に、「相変わらず」というか「ますます顕著」になったなと感じた事がありました。それは、「マネージャー」に関する若年層の意識です。

5年くらい前に調べたところ、「管理職になりたくない」比率がIT業界では他業種より高いとの結果が出ていましたが、近年益々顕著になったようです。今や、35歳付近で「管理職」か「専門職」を選択させるキャリアマップは、どの会社でも当たり前そうですね。先輩「プロマネ」の苦労を見ての結果なのでしょうか。私は大胆にもう一つの推測を試みました。

—「現場どぶづけの中堅SE」と、「彼に頼り切りの顧客」と、「そこにとりあえずの安心を求めるマネージャー」の三すくみ状態が人事の活性化を阻む。 — 論理の飛躍のしすぎでしょうか。(土橋)

## — IT こ〜でいね〜と! (編集後記)

年度が替わり、当NPOも新たな目標に向かって事業を進めてまいります。震災からの復興も、迅速にはなかなか進みませんが、少しずつ進められていることと思います。私自身も、NPO活動を媒介に、復興に対して何らかの支援ができないか考えてみたいと思います。ITCのビジネス活動が社会貢献にも結び付く。社会に貢献することがビジネスの目標になる。そんな組織活動を目指して、微力ながら活動に参加したいと考えています。(編集 村上)

発行元: 特定非営利活動法人 埼玉ITコーディネータ (ご相談などの問い合わせも受け付けています)

住所: 〒336-0021 さいたま市南区別所 7-2-1-411 TEL: 048-710-5437 FAX: 048-710-5438

URL: <http://www.saitama-itc.org/> E-mail: [info@saitama-itc.org](mailto:info@saitama-itc.org)